

南山大学人類学博物館

# 年 報

2007 年度

南山大学人類学博物館

## 巻頭言

2008年5月21日付の朝日新聞夕刊に、愛知県碧南市にある藤井達吉現代美術館の予算が3割カットされ、特別展が中止になったという記事がでていた。藤井達吉とは、碧南市出身で大正時代に活躍した彫刻家であり、この美術館は、藤井を顕彰する目的で建てられたものである。今年(2008年)の4月5日に開館したばかりであったが、議会でも事業費の削減を求められ、またそれを公約にした市長が市長選で当選したために、開館早々、館自体の運営にも支障を来すほどの予算削減を余儀なくされたという。

一方、騒がしいのは大阪府である。タレント知事による財政立て直し政策によって、府立の博物館施設は廃止を含めた見直しに入っている。こうした大阪府知事の政策に対しては学術団体や研究者より非難の声が上がっているが、今後の成り行きは不透明なままだ。

この二つの例に象徴されるのは、行政の予算が苦しくなったときに、真っ先にカットされるのは文化事業である、という足きりの構図であろう。これは、豊かなときは文化のにおいをつけておき、苦しくなれば「食う」ことを優先するという論理である。そして、このような論理は、指定管理者制度の導入などと根底でつながっている。

もちろん、博物館といえども経済状況に対して超然とすることはできないから、かなりの自助努力を要することは言うまでもない。だが、経済状況の悪化が、即、文化事業の切捨てにつながる国が、果たして先進国といえるのだろうか。結局、今の生活を優先することで、われわれは大事なものを、自分の手で棄ててしまっていることに気づくべきだ。

同じく朝日新聞の2008年5月28日付夕刊には、イタリアのプラダが美術館建設を進めているという記事が出ていた。そこにはデザイナーであるミウッチャ・プラダ氏の、「表現行為の本当の価値は何なのか。市場価値とは別に、いろんなクリエイターと作品が、同じ土俵に集まってみる必要があるのでは」という言葉が引用されていた。日本の状況と比べてみて、文化に対する思い入れの違いに愕然とさせられる。

達吉美術館の本館長は、「作った以上は、活動資金を与えて欲しい。その上での評価なら甘んじて受ける。ガソリンが無い車と同じで、これでは走るに走れない」と、苦しい状況を述べている。博物館や美術館を含めた日本の文化政策が、いかに無計画性なものであったかがよくわかる。それは同時に、日本の社会が本当の意味で博物館を必要とするほど成熟していないことをも意味している。今後、行政を中心に文化事業・文化施設の切捨てが加速していくことは十分考えられる。そして、その跡に残るのは、心の豊かさを不用品としてしまった寒々しい社会であることだけは間違いない。

2008年6月

南山大学人類学博物館

## 目 次

### 巻頭言

2007 年度の人類学博物館の活動	2
1. 教育・普及活動	4
(1) 展示	
(2) 特別展関連行事	
(3) 講座	
(4) 講演会・研究会	
(5) 連携授業	
(6) オープン・リサーチ・センター研究会・シンポジウムほか	
(7) 見学対応	
2. 調査・研究活動	1 2
(1) 調査出張	
(2) 博物館セミナー	
3. 資料貸出・撮影・閲覧・他機関刊行物等への掲載	1 2
(1) 資料貸出	
(2) 撮影・他機関刊行物等への掲載	
4. 資料修復	1 3
5. 当館紹介刊行物等一覧	1 4
6. 刊行物等一覧	1 4
7. 受贈資料	1 4
8. 新着図書	1 5
9. 取材・調査のための来館者一覧	1 5
10. 開館日数・入館者数	1 6
(1) 開館日数・来館者数	
(2) 団体別入館者数内訳	
11. 日誌抄	1 8
12. 施設整備	2 2
13. 組織	2 2
14. 規程	2 3
(1) 南山大学人類学博物館規程	
(2) 南山大学人類学博物館運営委員会規程	
(3) 南山大学人類学博物館資料評価委員会規程	

## 2007 年度の人類学博物館の活動

### 1. オープン・リサーチセンターの活動

2006 年度に採択された文部科学省の私立大学学術研究高度化推進事業も、2 年目を終了した。1 年目は各研究部会で、今後の研究の進め方について検討することが中心だったが、今年度は多くの研究部会が本格的な活動を開始している。

まず、人類学博物館の資料研究については、旧石器の部会で J. マリンガー神父のコレクションである、ヨーロッパの旧石器資料の図化作業が進行している。縄文部会では、引き続きかつて大学で発掘した田原市保美貝塚の整理作業をすすめ、また、東アジア部会では名古屋市大須二子山古墳出土の埴輪・須恵器等の図化作業を続けている。

調査活動では、博物館部会が展示環境・収蔵環境に関する実験を行い、その結果をシンポジウムにて報告した。また、人類学部会では、30 年以上前に上智大学が調査した調査地での再調査をすべく、現地での予備調査を実施した。

公開研究会・シンポジウムは、10 回を数えた。特に、縄文部会では東海地方の縄文後晩期をめぐるシンポジウムを 2 回行い、また、博物館部会でも先述のように、照明に関する実験と、展示室・収蔵室の温湿度を継続的に計測した結果を報告している。このほかにも歴史部会・弥生部会で研究会を 2 回、博物館部会・東アジア部会・人類学部会でそれぞれ 1 回ずつ研究会を実施している。

これらの成果は、人類学博物館をリニューアルするときの基礎的データであると同時に、博物館活動の方針を決めるときの根拠ともなる貴重な成果である。

このように、研究プロジェクトとしての活動が活発化した年であった、とすることはできよう。しかし、この研究プロジェクトも 3 年目に入ろうとする時、成果報告をまとめていく時間は余り残されていない。今後は、具体的な計画性を求めていきたい。

### 2. 教育普及活動

教育普及活動では、今年も博物館講座とフィールドワークを基軸として展開した。

博物館講座では、「モノにあらわれた世界観」をテーマとして、坂井信三氏、西江清高氏、加藤隆浩氏（いずれも南山大学教授）に渡辺誠氏（名古屋大学名誉教授）を加えた 4 名の講師に、それぞれの専門とするフィールドを材料として講義を行ってもらった。

フィールドワークでは、吉胡貝塚・伊川津貝塚・保美貝塚といった渥美半島の貝塚群、昼飯大塚古墳をはじめとした大垣の遺跡、そして春日井市・名古屋市の味美・味鉢の古墳群を巡見した。全ての見学は南山大学の黒沢が引率したが、現地での解説を長田友也氏（南山大学非常勤講師）、中井正幸氏（大垣市教育委員会）、浅田博造氏（春日井市教育委員会）にお願いした。ここに感謝の意を表したい。

5 月 24 日には、東京大学総合研究博物館の松本文夫氏を迎え、「世界建築紀行－空間と時間への旅」と題した公開講演会を開催し、好評を博した。

さらに、年度末近い3月1日には、鳥取県埋蔵文化財センター主催事業である出前講座「山陰の縄文文化・弥生文化」を受け入れて、開催している。

### 3. 名城大学附属名城高校との学習連携

2006年度より開始した、名城大学附属高校（以下、名城高校）との学習連携も2年目を迎えた。今回は、昨年担当したのと同じ、名城大学人間学部との高大一貫のクラスとして設置されている「国際クラス」であり、今年はそのクラスの科目の一つである「日本文化」で協力することになり、「身近な課題を歴史的に見る」というテーマで進めることにした。

今回は、日本文化に関する様々な関心を、生徒たちが調べてポスターにし、ポスターセッションとして発表するという形式をとった。これは昨年度の授業で、資料展示を行った際に、非常に時間と労力がかかったことの反省から、より簡便で、しかもそれに近い効果が上る事を期待して行われたものである。

結果的には、生徒たちがよく調べて、ポスターとして完成させることで終了したが、やや博物館資料とは乖離してしまった点は反省として残る。

なお、今回の初回には、名古屋市熱田区の断夫山古墳・白鳥古墳の見学を行った。

### 4. 特別展の開催

今年度は、故沼澤喜市学長が1960年代の南山大学によるニューギニア調査の際に撮影された写真を用いた「フィールドの記憶」を開催した。11月23日には、それにあわせたワークショップ「人類学は映像をどのように語るができるのか」も開催され、いずれも好評を博している。

また、博物館のロビーを使って、季節に関連した資料を展示する「ロビー展示」も行っており、資料の活用が活性化している。

### 5. 博物館実習

毎年、本学の学芸員養成課程における博物館実習を行っているが、今年度も、例年通り、実習生による展示を12月に行った。

また、それとは別に、他大学からの館務実習生も受け入れており、今年度は名古屋学芸大学から2名受け入れている。

### 6. 博物館セミナー

今日の博物館は、様々な活動を展開し、また様々な問題に直面もしている。そうした博物館を取り巻く状況について、専門的な立場からの意見を聞く場として、スタッフの研修機会を設けている。

今年度は、東京大学総合研究博物館の松本文夫氏による「大学博物館の可能性」と題したセミナーを5月24日に実施した。

## 1. 教育普及活動

### (1) 展示

#### ①特別展

『フィールドの記憶』

— 生誕 100 年 人類学者沼沢喜市のニューギニア調査写真から —

会期：2007 年 9 月 28 日（金）～11 月 24 日（土）

会場：名古屋キャンパス G 棟 人類学博物館ロビー

#### ②ロビー展示

1) 1 月『祝 新年』

2) 2 月『如月展—お一人様の暖房具—』

3) 3 月『雛祭』

#### ③本学博物館実習生による企画展示

1) 2007 年 11 月 30 日（金）～12 月 5 日（水）

『タイ少数民族ツアー』

『祈りのかたち—ニューギニア・セピックの混在する信仰—』

2) 2007 年 12 月 14 日（金）～12 月 19 日（水）

『エスニック・コスチューム—タイ北部少数民族の今—』

『昭和にタイムスリップ—昭和三十年代をリアルに感じてみませんか？』

#### ④企画展協賛

天理大学附属天理参考館第 56 回企画展

『モチゴメの国ラオス—メコン川流域の暮らし—』

会期：2007 年 10 月 17 日（水）～2008 年 1 月 7 日（月）

### (2) 特別展関連行事

特別展関連事業ワークショップ

「人類学は映像をどのように語るることができるのか

— 南山大学人類学博物館特別展『フィールドの記憶』を通して —

日時：2007 年 11 月 23 日（金） 17:00～19:00

会場：名古屋キャンパス G 棟 人類学博物館ロビー

コメンテーター：紙村徹氏（神戸市看護大学）、加藤隆浩氏（南山大学）

坂井信三氏（南山大学）、茂登山清文氏（名古屋大学）

\* 本学地域研究センター共同研究『映画の多元的解釈のための基礎研究』との共催

### (3) 講座

#### ①2007年度博物館講座『モノにあらわれた世界観』

第1回 6月9日(土)

「西アフリカの織物 技術・神話・商業から見たはた織り」

講師：坂井信三氏(南山大学人文学部教授)

第2回 6月23日(土)

「青銅器に映された多様な世界観 内陸アジア・中国・東南アジア」

講師：西江清高氏(南山大学人文学部教授)

第3回 7月7日(土)

「星座、雨、機織り、鳥 アンデス世界における七夕の組み換え」

講師：加藤隆浩氏(南山大学外国語学部教授)

第4回 7月21日(土)

「土偶・人面土器から見た縄文人の心」

講師：渡辺誠氏(名古屋大学名誉教授)

#### ②2007年度フィールドワーク『東海地方の考古遺跡を歩く』

第1回 10月27日(土) 事前指導

第2回 11月4日(日) 渥美の貝塚をめぐる

第3回 11月18日(日) 大垣の古墳

第4回 12月2日(日) 味美・味鉢の古墳群

第5回 12月8日(土) 事後指導

#### ③鳥取県埋蔵文化財センター主催出前講座『山陰の縄文文化・弥生文化』

2008年3月1日(土) 14時～16時30分 名古屋キャンパス B棟 B22教室

講演1：みえてきた山陰の縄文遺跡ー山間部を中心にー

小口英一郎氏(鳥取県埋蔵文化財センター)

講演2：地下の弥生博物館・青谷上寺地遺跡

茶谷満氏(同)

意見交換：山陰から縄文文化・弥生文化を考える

#### (4) 講演会・研究会

##### ①公開講演会

2007年5月24日(木) 18:00~19:30 名古屋キャンパスB棟 B44教室

『世界建築紀行ー空間と時間への旅』

講師：松本文夫氏（東京大学総合研究博物館客員准教授）

##### ②共催研究会

中部弥生時代研究会大会

日程：2007年6月16日(土)、17日(日)

#### (5) 連携授業

連携先：名城大学附属高等学校普通科国際クラス2年生

テーマ：身近な課題を歴史的に見る

内容：遺跡見学と土器スケッチ

各自の地元の博物館見学レポートを基にテーマを決めてグループ分けをし、  
調べ学習の成果をポスターセッションする

実施内容：

10月9日 フィールドワーク

- ・高蔵遺跡、断夫山古墳、白鳥古墳など熱田台地の遺跡を歩く。

10月16日

- ・夏休みの博物館見学について発表。
- ・見学したことを基にテーマを決めてグループ分け。

10月30日

- ・スケッチから気づいたことの発表。

11月6日

- ・テーマについて調べたことをグループごとに発表する。

11月13日

- ・テーマについて深めていくための手法とその具体例をレクチャー。

11月15日

- ・人類学博物館にて調べ学習

11月20日

- ・テーマについて調べたことの中間発表。

11月27日

- ・ポスターセッション準備。

12月11日

- ・ポスターセッション



## (6) オープン・リサーチ・センター研究会、シンポジウムほか

### ①研究会

#### 1) 博物館部会公開研究会「博物館とその空間」

2007年6月28日(木) 18:00~20:00 名古屋キャンパスD棟 D51教室

発表1: 里見親幸氏(株式会社丹青研究所)「ヨーロッパ博物館事情」

発表2: アッセマ庸代氏(南山大学)

「ホリスティックスペースとしての西洋圏非西洋圏研究空間」

コメント: 笠嶋淑恵氏(建築家: 一級建築士事務所笠嶋建築工房)

「ケ・ブランリー、ジャン・ヌベル構想と大学博物館」

#### 2) 歴史部会公開研究会「アジア太平洋戦争と人類学」

2007年7月14日(土) 13:20~17:10 名古屋キャンパスM棟 MB1教室

発表1: 毒島正明氏(埼玉県蓮田市役所)

「戦時中の考古学界の動向~太平洋協会を中心にして~」

発表2: 大倉潤氏(神奈川県秦野市立図書館)「清野謙次の人類学研究とその生涯」

発表3: 領塚正浩氏(市立市川考古博物館)

「G.グロート神父と太平洋戦争~抑留された外国人考古学者の動向~」

#### 3) 弥生部会公開研究会「生業を考えるー弥生時代の生業を中心にー」

2007年10月28日(日) 10:00~17:00 名古屋キャンパスB棟 B47教室

基調報告: 後藤明氏(南山大学)

「生業とは何かー社会に埋め込まれた生業という視点からー」

報告1: 山崎健氏(名古屋大学大学院生命農学研究科)

「動物遺存体からみた弥生時代の狩猟活動」

報告2: 大西秀之氏(総合地球環境学研究所)

「農耕社会における動物資源の生産活動

ー奄美のイノシシ猟とルソン島山地民のブタ飼育を事例として」

報告3: 川添和暁氏(愛知県埋蔵文化財センター)

「生業史観的研究の一提言——東海地域 弥生時代の漁撈を中心に」

報告4: 小野林太郎氏(総合地球環境学研究所)

「島嶼環境における生業戦略と漁撈——東南アジア島嶼部の事例から」

報告5: 篠原和大氏(静岡大学)「静岡清水平野における水田耕作の形成」

報告6: 細谷葵氏(総合地球環境学研究所)

「貯蔵形態と生業サイクル

ーバリ島稲作とパプアニューギニア焼畑作の民族誌調査から」

コメント: 石黒立人氏・宮腰健司氏・永井宏幸氏(愛知県埋蔵文化財センター)

4) 人類学部会公開研究会「タイ西北部山地民の現在Ⅱ」

2007年11月17日(土) 13:00~17:30 名古屋キャンパスB棟 B47教室

発表1: 森部一氏(南山大学)「タイ北部山地民予備調査報告」

発表2: 量博満氏(上智大学名誉教授)「タイ国山地民調査報告」

発表3: 綾部真雄氏(首都大学東京)

「タイの山地民が直面する法的・政治的現実—国籍問題の変遷を中心として」

5) 弥生部会公開研究会「民族・考古学からみた生産と流通」

2008年1月27日(日) 10:00~17:00 名古屋キャンパスB棟 B47教室

総論: 後藤明氏(南山大学)「民族考古学からみた生産と流通」

第1部「考古学的方法による生産と流通の検討」

報告1: 石黒立人氏(愛知県埋蔵文化財センター)「貝田町式土器原論」

報告2: 馬場伸一郎氏(国立歴史民俗博物館)「磨製石斧の「流通」と「交易」

報告3: 永井宏幸氏(愛知県埋蔵文化財センター)「弥生時代の土器製塩を考える」

第2部「民族考古学的方法による生産と流通の検討」

報告4: 中村真里絵氏(総合研究大学院大学)

「土器生産にみられる職人と技法について—東北タイの事例から」

報告5: 東村純子氏(京都造形芸術大学)・大西秀之氏(総合地球環境学研究所)

「民族考古学からみた機織技術」

報告6: 神野信氏(国立歴史民俗学博物館)「ラオス北部の鉄器生産」

第3部 質疑およびコメント

コメント: 森泰通氏(豊田市教育委員会)・石村智氏(奈良文化財研究所)

6) 東アジア部会研究会「大須二子山古墳と東アジア」

2008年3月1日(土) 11:00~17:30 名古屋キャンパスB棟 B43教室

主旨説明: 伊藤秋男氏(南山大学名誉教授)「大須二子山古墳の再検討に向けて」

報告1: 渡部展也氏(中部大学)「米軍航空写真と東海地方古墳の分布」

報告2: 原久仁子氏(多治見市文化財保護センター)「大須二子山古墳研究の再検討」

報告3: 藤井康隆氏(名古屋市教育委員会)「大須二子山古墳の埴輪」

報告4: 澤村雄一郎氏(飛騨市教育委員会)「大須二子山古墳出土馬具の特異性」

報告5: 伊藤秋男氏(南山大学名誉教授)「大須二子山古墳出土の青銅鏡」

報告6: 森川祐輔氏(立命館大学大学院文学研究科)

「大須二子山古墳出土甲冑が提起する問題」

報告7: 蘇哲氏(金城大学)

「大須二子山古墳甲冑の持つ意味—五胡十六国・南北朝甲冑との関係を中心に」

7) 歴史部会公開研究会「歴史を展示すること」

2008年3月8日(土) 13:00~17:30 名古屋キャンパスB棟 B47教室

発表1: 松田京子氏(南山大学)

「歴史展示の問題性—植民地の歴史についての展示実践から考える」

発表2: 領塚正浩氏(市立市川考古博物館)「考古資料と展示解説の狭間で考えること」

発表3: 永井英治氏(南山大学大学史料室)「古文書の展示」

発表4: 市橋芳則氏(北名古屋市歴史民俗資料館)「キオクの展示の現場から」

問題提起: 黒沢浩氏(南山大学)「歴史を展示することの意味・意義」

②オープン・リサーチ・センターシンポジウム

1) 縄文部会シンポジウム「山内清男縄文晩期研究と東海地方」

2007年11月10日(土) 11:00~17:00 名古屋キャンパスB棟 B22教室

基調報告: 大塚達朗氏(南山大学)「亀ヶ岡式精製土器移入・模倣論の構想」

発表1: 増子康真氏(日本考古学協会)

「縄文晩期の精製・粗製土器組成(愛知県を例に)」

発表2: 中沢道彦氏(早稲田大学先史考古学研究所研究員)

「東海地方浮線文土器資料と研究史的意義」

発表3: 松本泰典氏(小牧市埋蔵文化財発掘調査員)

「櫛描文研究から見る後期末・晩期初頭」

発表4: 川添和暁氏(愛知県埋蔵文化財センター)「施文と調整から見た土器の検討」

コメント: 百瀬長秀氏(日本考古学協会)、小林圭一氏(山形県埋蔵文化財センター)

岡田憲一氏(榎原考古学研究所)

## 2) 縄文部会シンポジウム

「東海地方晩期前半突帯文土器出現以前の地域性の多角的分析」

2007年12月8日(土) 11:00~17:00 名古屋キャンパスB棟 B22教室

基調報告: 増子康真氏(日本考古学協会)

「愛知県晩期前半有文土器諸系統の無文化指向とその意義」

発表1: 中沢道彦氏(早稲田大学先史考古学研究所研究員)

「飛驒における有文志向—阿弥陀堂式土器の理解に向けて」

発表2: 岩瀬彰利氏(豊橋市美術博物館)

「漁撈活動からみた東海地方晩期前半の地域的特色」

発表3: 川添和暁氏(愛知県埋蔵文化財センター)

「狩猟・植物利用などへの生業史観的研究の実践」

発表4: 佐野元氏(瀬戸市役所)

「愛知県域を中心とした縄文晩期—土器棺墓の変遷をめぐって」

コメント: 百瀬長秀氏(日本考古学協会)、小林圭一氏(山形県埋蔵文化財センター)

## 3) 博物館部会シンポジウム

「博物館の見せる技術、守る技術—展示技術と保存技術の最前線—」

2008年2月2日(土) 10:30~17:30 名古屋キャンパスG棟 G28教室

基調報告: 倉田公裕氏「博物館の見せる技術、守る技術」

報告1: アッセマ庸代氏(南山大学)「アンケート調査の結果報告」

報告2: 中沢文三氏(株式会社丹青研究所)・藤原工氏(松下電工株式会社)

「展示技術・照明」

報告2に対するコメント: 小池富雄氏(徳川美術館)

報告3: 熊谷淳一氏(株式会社ノイエ・デザイン)

「展示技術・グラフィック—ミュージアムのコミュニケーションデザイン」

報告3に対するコメント: 井口智子氏(名古屋ボストン美術館)

報告4: 小林宜文氏(株式会社丹青研究所)「保存技術(収蔵環境)」

報告4に対するコメント: 本田光子氏(九州国立博物館)・森田稔氏(京都国立博物館)

報告5: 本田光子氏(九州国立博物館)「震災対策」

報告5に対するコメント: 森田稔氏(京都国立博物館)

## ③その他

### 1) 博物館部会公開実験「展示施設の照明に関する実験」

2008年1月11日(金)、12日(土) 南山大学人類学博物館 第二展示室

## (7) 見学対応

### ①一般団体

- 1) 名古屋市高年大学環境学科 OB 会  
実施日：2007年9月29日 人数：11名
- 2) 神戸中ブロック  
実施日：2007年10月23日 人数：40名
- 3) 南山大学同窓会岐阜支部  
実施日：2007年11月3日 人数：83名
- 4) 昭和区生涯学習センター主催講座「昭和区の魅力再発見」受講者  
実施日：2007年11月28日 人数：20名
- 5) 明治大学博物館友の会  
実施日：2007年12月26日
- 6) 名古屋市高年大学歩いて知ろう会  
実施日：2008年1月24日 人数：40名

### ②学校団体

- 1) 鈴鹿市立創徳中学校 2年生 社会見学  
実施日：2007年5月17日 人数：40名
- 2) 私立南山高校女子部 情報科授業  
実施日：2007年6月13日 人数：41名
- 3) 名古屋市立名北小学校 6年生 総合的な学習の時間  
実施日：2007年6月29日 人数：19名
- 4) 名古屋市立中小田井小学校 6年生 総合的な学習の時間  
実施日：2007年7月3日 人数：40名
- 5) 愛知県立津島高校 総合的な学習の時間  
実施日：2007年8月3日 人数：42名
- 6) 名古屋大学「博物館概論」受講者  
実施日：2007年11月19日 人数：26名
- 7) 名古屋大学「博物館実習」受講者  
実施日：2008年1月12日 人数：21名
- 8) 名古屋市立瑞穂ヶ丘中学校 1年生  
実施日：2008年1月17日 人数：6名
- 9) 南山中学校女子部 2年生  
実施日：2008年1月23日 人数：31名
- 10) 名古屋市立千種台中学校 1年生  
実施日：2008年2月1日 人数：6名

## 2. 調査・研究活動

### (1) 調査出張

①出張先：東京大学総合研究博物館

出張者：木田歩

出張日：4月25日（水）

②出張先：野外民族博物館リトルワールド

出張者：木田歩

出張日：8月3日（金）

③出張先：福井県立恐竜博物館、永平寺瑠璃聖宝閣、福井県立歴史博物館

出張者：安藤さおり

出張日：3月11日（月）～12日（火）

### (2) 博物館セミナー

『大学博物館の可能性－保存と創造の両立に向けて』

2007年5月24日（木） 15:30～17:00 名古屋キャンパス G棟人類学博物館学習室

講師：松本文夫氏（東京大学総合研究博物館客員准教授）

## 3. 資料貸出・撮影・閲覧・他機関刊行物等への掲載

### (1) 資料貸出

貸出先	資料名・点数	貸出期間	目的
伊藤秋男先生の古希をお祝いする会	写真7点	2007年9月25日～10月2日	「伊藤秋男先生の古希をお祝いする会」2007年10月7日開催
知多市歴史民俗博物館	入海貝塚出土資料 コンテナ6箱	2008年1月12日～1月16日	第5回東海縄文研究会にて展示

(2) 撮影・他機関刊行物への掲載

機関名	資料名	刊行物名	備考
東京法令出版株式会社	二ツ木貝塚出土 平底土器	高校歴史資料集『新日本史 騒総覧』	2008年1月10日 発行
株式会社大巧社	白山藪古墳出土 埴	『城北線 歴史歩き』	2007年6月10日 刊行
株式会社 DNP アーカイブ・コム	花輪台貝塚出土 土偶	ルーヴルー-DNP ミュージ アムラボにおける上映番 組「象りの美」	2007年6月末～9 月8日まで上映
株式会社至文堂	花輪台貝塚出土 縄文土器	『日本の美術』第495号 「縄文土器 草創期・早期」	2007年7月10日 刊行
名古屋市市政資料館	大須二子山古墳出 土画文帯神獸鏡1 点・甲冑1点・他 12点、白山藪古墳 埋葬施設1点	『新修名古屋市史』資料編 「考古1」	2008年3月31日 刊行予定
NHK エデュケーショナ ル放送大学業務室	二ツ木貝塚出土 深鉢1点	放送大学2008年度授業番 組「日本美術史(08)」 第1回	2008年4月～ 2012年3月放映 予定
株式会社山川出版社	花輪台貝塚出土 土偶	『日本史図録』	2007年10月10 日刊行
株式会社至文堂	二ツ木貝塚出土 深鉢	『日本の美術』第496号 「縄文土器 前期」	2007年9月15日 刊行
天理大学付属 天理参考館	「上智大学西北タ イ歴史・文化調査 団」撮影写真2点	第56回企画展『モチゴメ の国ラオスーメコン川流 域の暮らしー』展示図録	2007年10月17 日
名古屋市市政資料館	白山藪古墳出土 須恵器・埴輪各1点	『新修名古屋市史』資料編 「考古1」	2008年3月31日 刊行予定
名古屋市市政資料館	瑞穂遺跡出土 弥生式土器	『新修名古屋市史』資料編 「考古1」	2008年3月31日 刊行予定

4. 資料修復

ニューギニア槍 4本 (保存処理)

鉄剣 2本 (保存処理)

## 5. 当館紹介刊行物一覧

機関名	内容	刊行物名
日外アソシエーツ株式会社	沿革・利用案内などを記したアンケート、所蔵品の写真	『大学博物館事典』2007年1月刊行
株式会社 I&Q ADVERTISING	紹介文と写真	株式会社中央コーポレーション販売物件マンションに関するホームページとパンフレット
株式会社 K&B パブリッシャーズ	紹介文	『名古屋ベストガイド2008-2009年度版』2008年度2月20日成美堂出版株式会社刊行
株式会社 名古屋リビング新聞社	紹介文、所蔵資料の写真	『リビング新聞かすがい・こまき』2008年3月22日刊行

## 6. 刊行物一覧

2007年度刊行物

『南山大学人類学博物館紀要』第26号

『南山大学人類学博物館年報 2006年度』

『南山大学人類学博物館オープンリサーチセンター 2007年度年次報告書』

『南山大学人類学博物館オープンリサーチセンター 2007年度年次報告書

付編 研究会シンポジウム資料』

## 7. 受贈資料

資料名	寄贈者
古地図等 約600点	玉置嗣郎氏
アイロン1点	伊藤雅子氏
カンボジア農具13点	野口博史氏（本学総合政策学部准教授）



## 8. 新着図書

### (1) 購入図書

50 冊

### (2) 寄贈図書数

発掘調査報告書	一般図書・紀要・年報・図録・研究報告等	たより類
1038	1034	376

## 9. 取材・調査のための来館者一覧

来館者名	資料名・点数	実施日
コーネル大学 リサ・クーリー氏	産着 1 点、犬張子 2 点	2007 年 6 月 8 日
名古屋市見晴台考古資料館 深谷淳氏	白山藪古墳出土資料	2007 年 9 月 14 日
名古屋市博物館 瀬川貴文氏	白山藪古墳出土資料	2007 年 10 月 17 日
愛知県教育委員会 原田幹氏	ニューギニア磨製石斧 11 点	2007 年 12 月 12 日、 2008 年 1 月 9 日、3 月 8 日
立命館大学 山管敦氏	大須二子山古墳出土甲冑	2008 年 2 月 19 日

## 10. 開館日数・入館者数

### (1) 開館日数・入館者数

開館日数	入館者数(授業以外)	団体数	団体人数
287	4,481	52	2,415

### (2) 団体別入館者数内訳(学内授業以外)

大学見学

日付	団体名	人数	担当課室
4月21日	私立麗澤瑞浪高校	88	入試課
5月11日	愛知県立岩倉総合高校	40	入試課
5月15日	私立南山国際高校保護者	41	入試課
5月25日	岐阜県立多治見高校	30	入試課
5月31日	愛知県立新城東高校	36	入試課
6月12日	岐阜県立加納高校保護者	45	入試課
6月13日	飛島村立飛島中学校	52	入試課
6月14日	愛知県立安城南高校	9	入試課
6月19日	愛知県立名古屋南高校保護者	40	入試課
6月21日	岐阜県立多治見北高校	246	入試課
6月22日	私立大垣日本大学高校	8	入試課
6月27日	愛知県立長久手高校保護者	39	入試課
6月29日	名古屋市立桜台高校保護者	19	入試課
6月22日	長野県立赤穂高校	42	入試課
7月11日	三重県立桑名西高校	16	入試課
7月17日	岐阜県立瑞浪高校保護者	11	入試課
8月1日	岐阜県立各務原西高校	28	入試課
8月24日	静岡県立掛川西高校	17	入試課
10月2日	愛知県立一宮南高校	42	入試課
10月5日	長野県立伊那西高校	24	入試課
10月17日	岐阜県立各務原西高校	100	入試課
10月18日	静岡県立浜松北高校	42	入試課
10月23日	愛知県立杏和高校	24	入試課
10月24日	静岡県立浜松南高校	32	入試課
10月24日	三重県立四日市南高校保護者	40	入試課
10月27日	長野県立下諏訪向陽高校保護者	29	入試課
10月31日	岐阜県立恵那南高校	12	入試課

11月12日	私立南山高校女子部保護者	41	入試課
11月14日	私立南山高校男子部保護者	59	入試課
12月3日	愛知県立阿久比高校保護者	25	入試課
12月8日	静岡県立静岡西高校保護者	22	入試課
2月28日	愛知県立松蔭高校	5	入試課
3月18日	愛知県立中村高校	37	入試課

大学見学以外

日付	団体名	人数
5月15日	東山区老人会	13
10月19日	名古屋大学「博物館資料論」受講者	50
10月25日	尾西市立尾西第三中学校	11
11月1日	名古屋大学「博物館実習B」受講者	19
2月1日	名古屋市立扇台中学校	19
2月1日	名古屋市立鳴海中学校	13
2月5日	名古屋市立守山西中学校	4

大学行事

日付	行事名	人数
8月25日	オープンキャンパス	362
8月26日	オープンキャンパス	493
9月29日	父母のつどい	61
10月8日	体験入学会	108
3月15日	保護者のためのオープンキャンパス	30

## 11. 日誌抄

### 4月

- 5日 実務者打合せ
- 9日 寄贈資料引取り（古地図）
- 12日 第二展示室絨毯修理（施設課）
- 13日 年間行事ポスター・チラシ発送
- 14日 オープン・リサーチ・センター研究協力者全体会議
- 19日 学内博物館実習に係る打合せ
- 21日 オープン・リサーチ・センター2006年度年次報告書発送
- 23日 学内考古学実習に係る打合せ
- 25日 東京大学総合研究博物館見学出張（木田）
- 26日 資料整理業務委託に係る打合せ

### 5月

- 9日 資料整理業務委託に係る打合せ  
本学後藤明教授より寄贈資料受け取り（南太平洋資料）
- 7日 廊下蛍光灯修理
- 17日 ホームページ更新用ソフト講習会  
保存処理対象資料搬出
- 18日 資料評価委員会開催
- 23日 イカリクリンネス大学京都文化財講座参加（安藤）
- 24日 博物館セミナー「大学博物館の可能性－保存と創造の両立に向けて」・公開講演会  
「世界建築紀行－空間と時間への旅」開催 講師：松本文夫氏
- 31日 至文堂、DNPアーカイブコムへ資料ポジ各1点貸出

### 6月

- 5日 第1回経理実地調査
- 9日 博物館講座第1回「西アフリカの織物 技術・神話・商業から見たはた織り」  
講師：坂井信三氏
- 11日 オープン・リサーチ・センター旧石器部会資料撮影に係る打合せ
- 14日 NHK エデュケーショナル放送大学事務室へ資料ポジ1点貸出
- 19日 次年度個別事業計画書提出
- 20日 平成18年度私立大学等経常費補助金に係る実績見直し調査票提出
- 22日 愛知県博物館協会総会出席（安藤）
- 23日 博物館講座第2回「青銅器に映された多様な世界観 内陸アジア・中国・東アジア」 講師：西江清高氏
- 25日 名城大学附属高校との連携授業に係る打合せ

- 26 日 本学非常勤講師中野智章氏来館、寄贈資料のイスラエル出土土器について意見を伺う、FAX 回線工事
- 27 日 NHK エデュケーショナル放送大学事務室より資料ポジ 1 点返却
- 28 日 学長室設置の展示ケース工場検査のため出張（安藤）  
オープン・リサーチ・センター博物館部会公開研究会開催
- 29 日 学長室設置展示ケース納品・豊田鐵郎氏寄贈の土器 1 点を展示

## 7月

- 1 日 オープン・リサーチ・センター旧石器部会資料撮影（～2 日）
- 3 日 名城大学附属高校との連携授業に係る打合せ
- 4 日 図書廻及入力業務委託に係る計画変更理由書提出
- 6 日 第 1 回博物館運営委員会
- 7 日 博物館講座第 3 回「星座、雨、機織り、鳥 アンデス世界における七夕の組み換え」  
講師：加藤隆浩氏
- 9 日 2006 年度年報発送
- 10 日 友枝コレクションのウェブ上での公開に係る打合せ
- 14 日 オープン・リサーチ・センター歴史部会公開研究会開催
- 16 日 至文堂より資料ポジ 1 点返却
- 19 日 大学史料室へ資料ポジ 1 点貸出、山川出版社へ資料ポジ 1 点貸出
- 21 日 「土偶・人面土器から見た縄文人の心」 講師：渡辺誠氏
- 24 日 オープン・リサーチ・センター博物館部会収蔵庫設備に関する実験ボックス設置
- 26 日 学外館務実習生来館・打合せ
- 30 日 I&Q ADVERTISING 撮影のため来館

## 8月

- 1 日 山川出版社より資料ポジ 1 点返却
- 3 日 資料調査のためリトルワールドへ（木田）
- 4 日 事務休日のため休館（～20 日）
- 23 日 ホームカミングデーの見学ツアーについて同窓会事務局と打合せ
- 24 日 平成 19 年度私立大学等経常費補助金に係る調査票提出
- 25 日 オープンキャンパス 1 日目 見学者数 362 名
- 26 日 オープンキャンパス 2 日目 見学者数 493 名
- 27 日 名古屋学芸大学学生 2 名館務実習（～9 月 3 日）
- 28 日 オープン・リサーチ・センター博物館部会で設置の実験ボックスのメンテナンス

## 9月

- 8 日 館内燻蒸
- 13 日 保存処理実施資料納品
- 18 日 第 2 回経理実地調査

- 19日 トイレ下水管工事
- 25日 伊藤秋男先生の古希をお祝いする会へ写真7点貸出
- 28日 特別展『フィールドの記憶—生誕100年 人類学者沼沢喜市のニューギニア調査写真から—』開幕（～11月24日）
- 29日 父母のつどい

## 10月

- 2日 伊藤秋男先生の古希をお祝いする会より写真7点返却
- 4日 地下収蔵庫配管修理
- 9日 名城大学附属高校連携授業として熱田台地フィールドワーク実施
- 16日 名城大学附属高校との連携授業②
- 18日 オープン・リサーチ・センター博物館部会での照明・グラフィック実験打合せ
- 27日 フィールドワーク事前指導
- 28日 オープン・リサーチ・センター弥生部会公開研究会開催
- 30日 名城大学附属高校との連携授業③
- 31日 オープン・リサーチ・センター人類学部会タイにて現地調査（～11月7日）

## 11月

- 3日 ホームカミングデーのため特別開館
- 4日 フィールドワーク「渥美の貝塚をめぐる」実施
- 6日 名城大学附属高校との連携授業④
- 8日 名古屋市高年大学4名下見見学
- 10日 オープン・リサーチ・センター縄文部会シンポジウム開催
- 12日 オープン・リサーチ・センター東アジア部会研究会開催  
学芸員専修コース受講（～13日、木田）
- 13日 名城大学附属高校との連携授業⑤
- 15日 次年度臨時職員雇用時間数申請書提出、次年度予算目的構成申請書提出  
名城大学附属高等学校生徒来館、調べ学習
- 16日 第2回博物館運営委員会
- 17日 オープン・リサーチ・センター人類学部会公開研究会開催
- 18日 フィールドワーク「大垣の古墳」実施
- 20日 名城大学附属高校との連携授業⑥
- 23日 「人類学は映像をどのように語ることができるのか—南山大学人類学博物館特別展『フィールドの記憶』を通して—」開催
- 24日 特別展『フィールドの記憶』閉幕
- 26日 オープン・リサーチ・センター博物館部会照明実験のための現状調査
- 27日 名城大学附属高校との連携授業⑦
- 28日 次年度予算申請

## 12月

- 1日 2007文化財・博物館関係団体交流会参加（安藤）
- 2日 フィールドワーク「味美・味鉢の古墳群」実施
- 8日 オープン・リサーチ・センター縄文部会シンポジウム開催  
フィールドワーク事後指導
- 10日 オープン・リサーチ・センター博物館部会照明実験のため、照明取替工事実施
- 11日 オープン・リサーチ・センター博物館部会照明実験に係る打合せ  
名城大学附属高校との連携授業⑧
- 19日 公的研究費管理監査体制に係る説明会

## 1月

- 11日 オープン・リサーチ・センター博物館部会公開実験（～12日）
- 12日 東海縄文研究会へ資料貸出
- 15日 考古資料撮影に係る打合せ
- 16日 東海縄文研究会より資料返却
- 24日 会計監査院実地調査対応（25日も）
- 27日 オープン・リサーチ・センター弥生部会公開研究会開催

## 2月

- 2日 オープン・リサーチ・センター博物館部会シンポジウム開催
- 7日 愛知県博物館協会自然科学部門研修会参加（安藤）
- 13日 愛知県博物館協会美術部門研修会参加（木田）
- 19日 次年度臨時職員雇用申請書提出
- 21日 名古屋市文化財審議会対応
- 25日 考古資料撮影（～27日）
- 28日 第3回博物館運営委員会（持回り開催）

## 3月

- 1日 オープン・リサーチ・センター東アジア部会研究会開催  
鳥取県埋蔵文化財センター出前講座開催
- 8日 オープン・リサーチ・センター歴史部会公開研究会開催
- 10日 オープン・リサーチ・センター博物館部会施設見学実施（～11日）
- 11日 第3回経理実地調査
- 26日 南山大学人類学博物館紀要第26号関係機関へ発送

## 12. 施設整備

日付	内容
4月12日	第二展示室絨毯修理
9月19日	トイレ下水管工事
10月4日	地下収蔵庫配管修理

## 13. 組織

### (1) 職員

館長	浜名優美	(副学長(教学担当) / 総合政策学部教授)
担当教員	黒沢 浩	(人文学部人類文化学科准教授)
特別嘱託職員	安藤さおり	
	木田歩	
臨時職員	吉田泰幸	
	松浪康男	(2007年4月1日着任、2007年4月6日退職)
	林 佑	(2007年4月9日着任)
	三浦真理子	(2007年10月9日着任、2008年3月26日退職)
	安住麻友子	(2007年10月10日着任、2008年3月28日退職)

### (2) 博物館運営委員会

委員長	黒沢 浩	(人文学部准教授)
委員	服部裕幸	(人文学部教授 / 博物館学芸員養成課程委員会委員長)
	加藤隆浩	(外国語学部教授)
	大塚達朗	(人文学部教授)
	渡部森哉	(人文学部講師)
	東 誠	(教育・研究支援事務室長)

### (3) 資料評価委員会

委員長	大塚達朗	(人文学部教授)
委員	加藤隆浩	(外国語学部教授)
	野口博史	(総合政策学部准教授)



## 14. 規程

### (1) 南山大学人類学博物館規程

#### (目的)

第1条 南山大学学則第44条の2にもとづき、本学に南山大学人類学博物館（以下「博物館」という。）を置く。

② 博物館は、「人類学（文化資源学、考古学、民俗学および民族学を含む。）」（以下「人類学」という。）に関する資料の収集、調査、解析、収蔵、管理、保存、展示、公開などを行ない、本学の学生、職員および社会の利用に供し、教育・研究に資することを目的とする。

③ 博物館の組織および運営については、この規程の定めるところによる。

#### (事業)

第2条 前条第2項の目的を達成するため、博物館は、次の各号に掲げる事業を行う。

- 1 人類学に係る調査、収集、保存、管理および解析
- 2 人類学の展示および公開
- 3 人類学に関する情報提供
- 4 人類学に関する教育研究の支援
- 5 博物館所蔵資料を利用した生涯学習の企画および運営
- 6 博物館および博物館に従事する職員の資質向上に寄与する学芸員の養成

#### (館長)

第3条 博物館に館長を置く。館長は副学長（教学担当）とする。

② 館長は、博物館の事業を統轄し、博物館を代表する。

#### (担当教員)

第4条 博物館に博物館担当教育職員（以下「担当教員」という。）を置く。

② 担当教員は、博物館活動の企画・運営に従事する。

③ 担当教員は、学長が指名する候補者について、大学評議会の承認を得て委嘱する。

#### (運営委員会)

第5条 博物館の運営に関する重要事項を協議し、諸事全般を決定する機関として南山大学人類学博物館運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

② 運営委員会に関する規程は、別に定める。

#### (資料評価委員会)

第5条の2 第2条第1項第1号に定める収集事業を適正に遂行するために、南山大学人類学博物館資料評価委員会（以下「資料評価委員会」という。）を置く。

② 資料評価委員会に関する規程は、別に定める。

#### (規程の改正)

第6条 この規程の改正は、大学評議会の承認を得なければならない。

(雑 則)

第7条 この規程に定めるもののほか、博物館の運営について必要な事項は、運営委員会の議を経て、館長が別に定める。

附 則

この規程は、2005年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2006年7月1日から施行する。

## (2) 南山大学人類学博物館運営委員会規程

(目 的)

第1条 南山大学人類学博物館運営委員会（以下「委員会」という。）は、南山大学人類学博物館規程第5条にもとづき、南山大学人類学博物館（以下「博物館」という。）の運営に関する重要事項を協議し、諸事全般を決定することを目的とする。

(組 織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 1 博物館担当教育職員（以下「担当教員」という。）
- 2 博物館学芸員養成課程委員会委員長
- 3 学長より指名された者若干名

② 委員は、大学評議会の承認を経て、学長が委嘱する。

③ 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(所掌事項)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- 1 博物館の予算（案）および決算（案）に関する事項
- 2 博物館資料の収集選択に関する事項
- 3 博物館関係規程の制定または改廃に関する事項
- 4 博物館の事業に関する事項
- 5 その他博物館の管理運営に関する重要事項

(議事運営)

第4条 委員会に委員長を置き、担当教員をもってあてる。

② 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

③ 委員長に支障のあるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

④ 委員会は、特に定めのある場合のほか、委員の過半数の出席をもって成立し、出席者の過半数をもって議決する。

⑤ 委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(事務)

第5条 委員会の事務は、教育・研究支援事務室が担当する。

(規定の改正)

第6条 この規定の改正は、大学評議会の承認を得なければならない。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員会が別に定める。

附則

この規程は、2005年4月1日から施行する。

附則

この規程の改正は、2006年7月1日から施行する。

### (3) 南山大学人類学博物館資料評価委員会規程

(目的)

第1条 南山大学人類学博物館資料評価委員会（以下「委員会」という。）は、南山大学人類学博物館規程第5条の2にもとづき、南山大学人類学博物館（以下「博物館」という。）において行なう博物館資料の収集に関する事項を協議し、決定することを目的とする。

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

1 南山大学人類学博物館運営委員会委員2名

2 博物館長より指名された者若干名

② 委員は、大学評議会の承認を得て、学長が委嘱する。

③ 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(所掌事項)

第3条 委員会は、博物館資料の寄贈の申入れについて、南山大学人類学博物館運営委員会の諮問に基づき、その可否を審議、決定する。

(議事運営)

第4条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

- ② 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- ③ 委員長に支障のあるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。
- ④ 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、出席者の過半数をもって議決する。
- ⑤ 委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(事務)

第5条 委員会の事務は、教育・研究支援事務室が担当する。

(規程の改正)

第6条 この規程の改正は、大学評議会の承認を得なければならない。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、**2006年7月1日**から施行する。

2008年6月9日 印刷

2008年6月19日 発行

南山大学人類学博物館年報 2007年度

編集・発行人 南山大学人類学博物館

466-8673 名古屋市昭和区山里町18

TEL 052 (832) 3111 内線 5223

印刷 株式会社ウエルオン

460-0007 名古屋市中区新栄3-21-31

TEL 052 (732) 2227